



これが若者の声だ!! PART3

私たちの労働実感

- ・最近外出する人も増え、電車も混んでいる。比較するならコロナ前ではなく昨年と比べるべきだ！黒字化に向けて、職場でも様々なイベントを計画し実施している。苦勞に報いるべきだ！
- ・運転士と車掌の相互運用を担うことになり、労働密度は確実に濃くなっている。
- ・業務量は年々増加している。統括センター化や乗務員の相互運用など、施策によって業務の幅も広がっている。ユニット活動においては超勤ありきでやらなければいけない雰囲気。業務量の増加に見合った賃金をもらっていると思う若手社員がどれだけいるか考えるべきだ。
- ・労働の質が高まっているが賃金は増えない。若手は辞めていく。そんな中で働きがいも何もないでしょうというのが率直な思い。稼ぐことが中心になってしまえば安全が保てなくなり、いつか大きな事故につながりかねないと感じている。
- ・社員に対して、「普段の業務をするのは当たり前、それ以上やって初めて評価をつける」という成果型に変わってきたと思う。評価目当てで色々手を付けだして、倒れないか心配である。
- ・休日出勤が多数で働きまくっている！安全安定輸送に貢献している！
- ・乗務以外にも委員会やプロジェクト等を担う人も多く、仕事が終わって疲労感が多いのにさらに超勤となり、ヘトヘトもいところである。

これらの意見をはじめ、職場からさまざまな苦勞や奮闘している声が寄せられました。



会社は私たちの努力に報いるべきだ！

- ・本来業務ってなんですか？今までも不明確な点が多かったが、統括センター化でさらにわからなくなった。
- ・JR 本体で軌道整備や除草を行いながら、少しでも予算の節約に取り組んできた。
- ・新しいことへのチャレンジや、業務研究でより一歩先のことを取り組んだことなど、去年よりは成長した部分は賃金で評価してほしい。
- ・仕事でも少しずつ責任の重い仕事を任せられるようになり、残業も増えた。モチベーションを維持していくためにも賃金で応えてほしい。



まだまだあるぞ！
若手の声！